

平成 29 年度 第 1 回四條畷市補助金制度在り方検討会 議事摘録

- 日 時 平成 29 年 9 月 29 日（金） 15 : 00～16 : 30
- 場 所 四條畷市役所 東別館 2 階 202 会議室
- 出席委員 = 5 名 : 坂本委員、施委員、辻委員、藤岡委員、増田委員
- 傍聴者 = なし
- 事務局 = 3 名 : 砂本総務部副参事（特命担当）、喜多市民生活部次長兼地域協働課長、宇都宮市民生活部地域協働課主任

担 当	内 容
事務局	<p>定刻になりましたので始めさせていただきます。本日は、委員の皆様には、大変お忙しいところお集まりいただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>只今から、第 1 回四條畷市補助金制度在り方検討会を開催いたします。</p> <p>本日は第 1 回ということで、まず最初に東市長からご挨拶させていただければと思いますので、東市長よろしく願いいたします。</p>
東市長	<p>－ 市長あいさつ －</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、会議次第の 1 になります、委嘱状の交付をさせていただきたいと思ひます。50 音順にお名前を読み上げさせていただきますので、順次前にお進みください。</p> <p>－ 市長から各委員に委嘱状の交付 －</p>
事務局	<p>ありがとうございました。委員の皆さまにおかれましては今後とも何卒よろしく願いいたします。これにて委嘱状の交付を終わりたいと思ひます。</p> <p>それでは次第 2 の自己紹介にうつりたいと思ひます。これにつきましても、50 音順ということで、各委員の皆さま、よろしく願いいたします。</p>

事務局	<p>－ 各委員自己紹介 －</p> <p>委員の皆さまありがとうございました。</p> <p>それでは市長は公務によりこれで退席とさせていただきます。</p> <p>続きまして、事務局から自己紹介をさせていただきます。</p>
事務局	<p>－ 事務局自己紹介 －</p>
事務局	<p>それでは次の次第に移らせていただきたいと思います。趣旨等の説明でございます。お配りさせていただいている資料の確認と併せて行いたいと思います。</p> <p>まず、補助金制度在り方検討会条例でございます。詳細は後ほどご確認いただきたいと思います。皆さまに特にご承知おきいただきたい内容といたしましては、第2条の所管事務でございます。1つは、市民の需要に応じた補助金の制度の在り方を検討すること、2つめは、補助金の制度の適正な運用に関し必要な事項を調査すること、最後に3つめ、前2号に掲げるもののほか、補助金の制度及びその運用に関し必要な事項を調査審議すること、となっておりますので、これを踏まえまして何卒ご協力をお願いいたします。</p> <p>次が補助金制度在り方検討会の規則となっております。</p> <p>この後の趣旨説明の後、規則第2条に基づき、委員長及び副委員長の互選を行いたいと思いますのでよろしくをお願いいたします。</p> <p>次に、本日は傍聴者がおられません。この検討会の傍聴要領ということで、原則的に15人まで、会場によってはそれ以上設けてもよいとは思っております。傍聴に関しては、基本的には許可する方向で進めたいと思っております。</p>

委員一同	<p>で、皆さまそれでよろしいでしょうか。</p> <p>－ 異議なしの声 －</p>
事務局	<p>ありがとうございます。それではこの傍聴要領で運用していきたいと思いたすのでよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは次の資料になります。四條畷市の補助金の現状と課題、これが趣旨等の説明にあたります。</p> <p>先ほど市長が挨拶の中で、今回の検討会の趣旨についてはほとんど説明しているのですが、事務局として今現在考えている、今回の検討のさわりの部分について、資料に基づいて説明させていただきます。</p> <p>まず、今回補助金の在り方の検討を担当する事務局として、現在の補助金の現状について申し上げますと、補助金の交付が問題ではなく、本市で策定した協働のまちづくり指針の理念の下、市民の方々が主体的に取り組むコミュニティ活動に対し補助することができているかどうか問題であり、そのような意味から考えますと、地域環境の整備やコミュニティ意識の醸成が図られている部分もあり、市民福祉の向上に一定の成果を挙げているものと事務局としては考えております。</p> <p>ただ、その一方で本市の現在の補助金制度を俯瞰的に見た場合、補助制度自体ある程度固定化されてきており、新たな団体が自由な発想で補助金の交付を受けようとする事業を提案しようとしたときに、制度として対応できていない部分もあると考えております。</p> <p>また、補助金の使途について、細かく設定しているものもあれば、包括的な規定となっているものものあり、その補助金が事業費に対する補助なのか団体の運営に対する補助なのかが不明確なもの、さらには、名称は補助金でも実質的には委託なのではないかなど、市民から分かりづらい部分があるのではと考えております。</p>

加えて、事業実施に係る効果検証について、これまで外部の視点が入っていないという点があるものと考えております。

もうひとつは補助金の金額算定の基準が明確でない、例えばイベント補助の場合なぜこの金額なのか、当初は基準があったのかかもしれませんが、10年、20年経つ中で、金額が非常に不明確になっているケースが生じていると考えております。

そうした中で、この補助金在り方検討会の中で市長が特に重要と考えている部分が、あくまでも補助金を削るのが主体ではなく、「協働のまちづくり」の観点から、市民と行政による協働のまちづくりを進めていく上で、本市の補助金制度について、今申し上げたような課題に対応しながら、補助金の適正執行の担保や透明性の確保といった部分はもちろんのこと、効果的かつ効率的で、多様化する住民ニーズにも対応できるようなものとなるように、委員の皆さまから様々なご意見をいただきながら、まずはこの平成29年度中に、補助金制度の在り方に関する大きな方向性を取りまとめていきたいと考えているところでございます。

今申し上げた部分が、この検討会の趣旨となるところでございます。

事務局

ここまでにについて何かご意見等ございますか。

藤岡委員

少し補足させていただきます。

今事務局から説明のあったとおりですが、具体的な話でいいますと、市民団体が補助金ありきになってしまっている実状がありまして、お金があるからそれで何かしようかという部分があります。

ただ、最近の新しい市民団体では、最初に事業計画を出してもらった中で、これにこれだけ予算が必要だからといった計画を申請してそれを市で承認して、事業実施後は、領収書などを添付書類として実績報告をしてもらった上で行政から補助金を交付するといったような団体もあります。このように補助金を受けている団体間での差が出てきているところがあって、どこかのタイミングで全庁的なルールとして今後補助金とはこういうルールになりますので、と

事務局	<p>ということで今やっている形に近づけるといいうのもあるのかなと思っています。</p> <p>今藤岡委員から補足いただいた訳ですけれども、なかなかこの補助金を見直すとなった時に、今回四條畷には直接の利害関係のない方に委員として就任いただいている形になっていますので、そういう意味で公平な判断をしていただけるものと考えています。今後の検討の中では、外部の視点でフラットなスタンスで、こうした所に課題がある、こうした方が良くといったご意見をいただきたいと考えております。</p>
藤岡委員	<p>具体的には、補助金は、市の事務局自体が担っていることが多いので、この場に団体の代表者の方などがいると、どうしても意見がそっちに寄ってってしまうといったことになりますので、できるだけ今補助金に携わっていないという観点と、いろんな経験をお持ちの中でうちの市としてはこういうのが良いのではないかと意見をいただきたいと考えています。</p>
事務局	<p>様々な知見から公平に判断いただけるという認識で進めていけたらと考えております。</p>
事務局	<p>それでは、趣旨等の説明は終わりましたので、次に委員長及び副委員長の選出ということになっております。これについては先ほど申し上げた検討会規則の中で、委員長及び副委員長を置くということになっていますので、これについてまずご協議いただければと思っています。委員長、副委員長については委員の皆さまの互選ということになっておりますので、まずはどなたか立候補いただける方はおられますでしょうか。なかなかこういう場でいきなり立候補というのは難しいかもしれませんが。</p>
藤岡委員	<p>私の方から推薦させていただいてもよろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>お願いいたします。</p>

藤岡委員	<p>委員長には、先ほどの自己紹介の中にもありました、他市でもこういった委員をされておられます辻委員になっていただけたらと思っています。民間企業でのご活躍や大学教授としてお勤めもされておられ、他市の検討組織の委員長、副委員長なども歴任されておられるという豊富な経験から、この検討委員会を引っ張っていただけたらと考えておりますが皆さまどうでしょうか。</p>
委員一同	<p>－ 異議なしの声 －</p>
事務局	<p>それでは辻委員よろしくお願ひします。 副委員長についてはどういたしましょう。</p>
藤岡委員	<p>様々なご経験をお持ちの方ばかりですので難しいですが、施委員に副委員長になっていただけたらと思っております。先ほどのお話にもありました企業経営者としての感覚であったり、大阪を変える100人会議などでの様々な経験や非営利活動組織に関する造詣も深いことからお願いしたいと思っておりますがどうでしょうか。</p>
委員一同	<p>－ 異議なしの声 －</p>
事務局	<p>それでは委員長に辻委員、副委員長に施委員ということでお願いしたいと思ひますので、座席の移動をお願いいたします。</p>
事務局	<p>－ 辻委員、施委員、それぞれ委員長、副委員長席へ移動 －</p>
事務局	<p>それではただいまご選出のありました辻委員長及び施副委員長から就任にあたってのご挨拶をいただければと思ひます。辻委員長からお願いいたします。</p>

	<p>－ 辻委員長 施副委員長 就任の挨拶 －</p>
事務局	<p>ありがとうございました。今、施副委員長のご挨拶の中にありました、市長の考えや市としての将来ビジョンにつきましては、ちょうど藤岡委員が市政の総合調整を行う調整監という部分を担っておりますので、今後の検討の中で市長の意向を踏まえた意見出しということをしていただければと思いますのでご理解をお願いします。</p>
施副委員長	<p>もう1点質問よろしいですか。</p> <p>今資料を見せていただいている、補助団体の固定化という問題のところで、外部の視点も入れて新しい団体が補助金を使いやすいように持っていきたいとのことですが、新しい団体というか新しい担い手というか、既存の補助金を利用している団体以外にたくさんあるものなんでしょうか。</p>
事務局	<p>大都市に比べれば数は多くないですが、協働のまちづくりを担当している窓口としては、相談レベルで、こういう団体を作って公共のためにやっていきたいけれど、最初の立ち上げの部分で資金的に難しい、そういった部分をフォローできる部分はないかという話を聞くことはあります。</p> <p>四條畷市の補助金全てがそうではないですが、どちらかというと言った昔に作った補助金は、要綱の中で補助金を受けることができる団体が特定されるような書き方になっているものも見受けられます。ですので、例えば今生駒市さんで進められているような提案型、例えばやる気のある団体が一定の最低限の条件を満たしたうえで申請を行ったものについて、皆さんで検討いただいて審査するといったような仕組みが四條畷市には現在ありませんので、そういうものを作っていけたらという思いはあります。</p>
辻委員長	<p>今後、我々が議論を進めていく前提として、今どれだけの団体に補助金を出していて、その活動内容は何なのか、補助金の算定基準といった資料が事務局から出てきて、それを元に議論する。また市長の話にもあったように新しい団</p>

事務局	<p>体に補助制度の門戸を開くための補助制度のシステム作り、例えば今いったような提案のあったものについて議論すると、そういうことでよろしいですか。</p> <p>まず、委員長のおっしゃるとおり現状を把握していただいたうえで、今年度については、細かい制度を作るというよりは現状の補助金の課題を抽出いただいて、それに対する対処策、こういう形に変えていかなければいけないという方向性を示していただいて一定の報告を今年度中にまとめる、それでその報告に基づいて次年度以降に新たな人や団体がチャレンジできる補助金制度の仕組みを皆さんに意見をいただきながら構築していくというようなスケジュールでと考えております。</p> <p>もう1点が、既存の補助制度について、今年度については俯瞰的にしか見ていただく時間はないかと考えておりますが、次年度は一つ一つ説明させていただきながら、個々の補助金の問題点の洗い出しと改善の方向性などについて、外部有識者という公平な立場、視点で判断いただければと考えております。</p>
辻委員長	<p>今事務局がおっしゃったのは次の次第の今後の進め方等の協議についてということよろしいですか。</p>
事務局	<p>そうなります。</p>
辻委員長	<p>それではもう少し詳しく説明をお願いします。</p>
事務局	<p>進め方についてまず最初に今後のスケジュールとして、今年度あと4回開催させていただこうと考えております。お配りした資料をご覧くださいと、次が11月上旬、以下12月下旬、1月下旬、3月下旬ということで、3月下旬の段階で検討会としての大きな方向性の取りまとめを行いたいと考えております。つきましては、本日この場で具体的な開催日についての日程調整をお願いしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。</p>

－ 各委員との日程調整 －

【以下、調整結果】

第2回 平成29年11月15日（水）、午前10時～

第3回 平成29年12月19日（火）、午前10時～

第4回 平成30年 1月24日（水）、午前10時～

第5回 平成30年 3月26日（月）、午前10時～

事務局

ありがとうございました。日程についてはこれをお願いしたいと思います。次は今後の進め方の具体的な中身に入っていきたいと思います。

今年度中に検討会としての大きな方向性を示すとなった場合、事務局としては、本市の補助金の現状の課題を抽出し、ご意見を頂いたうえで、今後それをどういう形に変えていったら良いかという、補助金在り方検討に係る方向性までを示すことができたらと考えております。

これについては、各委員にご就任の依頼をお願いに伺った時にもお話させていただいていた部分になりますが、その時にお配りさせていただいている既存補助金審査表ということで、現在本市が交付している補助金について取りまとめた表に既存補助金の大きな概要を書かせていただいておりますので、これをまず見ていただいたうえで、この補助金にはこういう問題があるなど、委員自身が感じられた課題について皆さまからご意見いただき、次回会議で持ち寄ってブラッシュアップしていきたいと考えております。どのレベルまでブラッシュアップするかについては、委員長、副委員長を含めてご意見いただきながら進めていきたいと考えています。

また、先ほど委員長から話もありましたが、既存補助金審査表には検討に必要な部分が抜けているところもあると思いますので、そのあたりについても、こういう部分が必要であるとか、また補助要綱などもご用意できますのでよろしくをお願いします。

ただ、この審査表の中には、国の制度に基づく補助金で、市の方で検討する余地がなく、おそらく議論の対象とならないものも含まれております。

辻委員長	それは分類していただくことはできるのでしょうか。
事務局	事務局の方でとりあえずの色付けはできるかと思います。その色付け自体についてもご意見いただけたらと思います。
辻委員長	国の補助金であっても市が審査するのであれば、その審査の中で議論をすれば良いわけで、この検討会の議論からは基本的には省いたら良いのではないのでしょうか。
事務局	国100パーセント補助の補助金であればそれで良いと考えるのですけれども、例えば国50パーセント、市20パーセントなど補助割合の違うものであれば、補助対象者などについてシビアに見ていく必要があると考えます。
辻委員長	そういうのは結構あるものなのですか。
藤岡委員	具体的に言いますと、例えば民間の保育園を改修するときは、申請は国へするのですが、国から2分の1、府から4分の1、市から4分の1の補助金が出るといったようなものが結構あります。
事務局	このあたりについては、次年度個々の補助金を見ていくときに、スポットが当たったものについて深掘りして検討していけたらと考えています。
坂本委員	国との関係で補助割合がある補助金というのは、国の補助が通れば自動的に市からも補助を出すということですよ。
藤岡委員	そういう意味では市が100パーセント出している補助金に絞ることもできますよね。

増田委員	パーセントといいますか、国の補助が一部であっても全体として国の審査基準を使わないと国から補助が出ないという仕組みのものですと、国の補助を前提とした場合、そもそも市独自の審査基準を定めるという性質のものではないのでは、と思います。
坂本委員	国の制度に上乘せしていくようなものもありますよね。
藤岡委員	まず補助金の分類をする必要があるかもしれないですね。補助金の種類や性質などの。
事務局	個々の補助金に今の話のように深く入っていくのは次年度とされていて、どこまで今年度中に踏み込んでいくかという問題もあります。
藤岡委員	個々の補助金に入っていくのは次年度になるけれども、分類自体は割とすぐできるのでは。
事務局	それはすぐできると思います。
辻委員長	できれば、まず市単独の補助金、国・府・市など補助割合のあるもの、それから本来は国単独で出しているものに上乘せしているものなどに分類していただく方が議論しやすいかもしれませんね。
事務局	分かりました。では今おっしゃっていただいたような形で色分けするなどして整理したものをご提示させていただくようにします。 それとともに、次回までに各委員におかれましては、審査表を見ていただいて、課題や分かりにくい部分等ご意見いただきたいと思います。
施副委員長	例えばで恐縮なのですが、個々の補助金に一つずつ踏み込むのではなくて、どういうところを課題と捉えるかというところで、例えば資料の54番

	<p>の老人クラブ連合会への補助金に関しての記述で、これに限った考え方ではないのですが、現在会員数が減少傾向で高齢者人口の10パーセントを下回る数まで減ってきているというところで、例えば補助金創設当初の平成11年から現在の補助金額の推移と、過去から現在までの高齢者人口割合の推移との比較という観点、例えば高齢者の割合が当初の3分の1になってきているのなら補助金額も3分の1にすべきではないかなど、そういう課題が見えてきますよね。そういう意味で、この資料だけでは見えにくいところもあると思います。</p>
事務局	<p>今のお話は、設立当初の金額を算定した分と、算定根拠となったものが現在減ってきているのにその金額のままであれば、特別な事情のない限り違和感があるということですよね。そのあたりの検証ができていないのではというお話だと思います。それもひとつ、補助金に対する検証が不十分であるという意見になると思います。</p>
施副委員長	<p>我々が今後考えるにあたって、今の資料は過去3年のものを並べていただいているのですが、もう少し過去に遡って、時間軸で整理していただけないと見えてこない部分がありますよね、でも例えば平成11年まで遡って全部の年の資料を揃えてくれというそういう意味ではなく、そのあたり事務局でこういう資料付けた方がいいとかもう少し精査していただけると嬉しいかなと思います。</p>
辻委員長	<p>僕もこの資料全てに目を通したわけではないのですが、副委員長おっしゃったように少し分かりづらくて、これで判断するには材料が乏しいなという気がします。例えば、ひとつの物の見方として、先ほど話もあつたかと思いますが、他市の先進事例というか、そこでどういう検討をされてどういう形を出したかという他市の先進事例を集めて欲しいと思います。</p>
事務局	<p>分かりました。当たってみます。ちなみに今お配りしている審査表は隣の寝屋</p>

	<p>川市が同じように外部有識者を入れてされたということで、その資料を参考に作らせていただいています。</p>
藤岡委員	<p>進め方ですね。どういう検討の積み重ねがあって何を変えたかとかその結論があればそのあたりをまとめていくような形ですかね。</p>
事務局	<p>一度他市の補助金在り方検討の資料をあたってみます。</p>
施副委員長	<p>他市事例を参考にするのであれば、函館市の取組みがおすすめです。かなりイノベーション的な要素も入っていて、これを参考に四條畷も進めていけば進めていきやすいのではと思います。</p>
辻委員長	<p>私も見ておきます。</p>
事務局	<p>ではあまり多すぎても非効率ですので、函館市を含めいくつかの他市事例をあたってみます。</p>
辻委員長	<p>参考になると思いますのでよろしくお願いします。</p>
施副委員長	<p>実際に審査していくのは次年度からですね。審査方法等についても言及があったと記憶しているので大変参考になると思います。</p>
辻委員長	<p>その他にも、我々が判断するにあたり参考となる資料があれば事務局の方でよろしくお願いします。</p>
施副委員長	<p>僕が先ほど言った過去に遡った時間軸の観点、それから辻委員長のおっしゃった他地域の先進事例、これは空間軸の観点になると思いますけれど、これらの観点に基づいた資料を全て準備いただいても非効率ともなりますので、事務局の方で資料については一定精査しながら、議論が効率化するような資料をお</p>

	<p>お願いしたいと思います。</p>
増田委員	<p>これは配布資料や議事録は公開されるのですか。</p>
事務局	<p>議事録についてはもちろん公開となっています。配布資料については、積極的な開示はしませんが、開示請求があれば開示していく形になると思います。</p>
増田委員	<p>最初から開示を前提とするのが気になりまして。</p>
事務局	<p>というのもおそらくこの在り方検討会の資料というのは、検討を進めていく中で内容が大きく変わっていくのではないかと考えています。</p>
藤岡委員	<p>政策決定過程になりますので、全てが全て出せるかというところ、そこは内部で検討しながらという形で、場合によっては部分開示ということにもなるのかなと思います。</p>
事務局	<p>それでは、今いただいた意見を元に一度資料を作成しまして、また皆さまにご意見いただきたいと思います。</p>
辻委員長	<p>あまりご負担のないようにお願いします。</p>
事務局	<p>実は今四條畷市では働き方改革を強力に進めていくということになっておりまして、やはり仕事をする以上は実のあるものにしないといけないと思っております。仕事をした結果が徒労に終われば全く意味がありませんので、この検討会においても、効率性を重視した形で進めたいと思いますのでよろしくお願いたします。</p>
施副委員長	<p>そうしないと後4回の会議で絶対まとまりませんしね。</p>

事務局	<p>ですので、スケジュール感としては4回目のところである程度市長への報告内容を取りまとめて皆さんでシェアしておかないといけませんのでよろしくお願い致します。</p> <p>今後の進め方等の協議については以上となります。</p>
辻委員長	<p>案件6のその他は何かありますか。</p>
施副委員長	<p>基本的な質問なのですが、冒頭市長の方から、補助金の予算を削るのではなくて市民が使い勝手の良いものをとという話がありましたけれども、来年度の補助金の予算総額は現状維持なのか減少予定なのかなどのイメージはあるのですか。</p>
事務局	<p>今のところは未定ですが、市長からは、新たな補助制度については、平成30年度の上半期頃には、皆さんからの意見をいただきながら制度化をして、平成31年度当初から施行できるような時間軸で検討してほしいという話は受けております。</p>
藤岡委員	<p>そうですね、29年度中に方向性を出して、30年度に細かい検討を行っていくのですが、一定固まった段階で31年度予算に反映させようと思うと、補助対象者となる市民団体等への周知期間が必要になってきますので、平成30年度の上半期には制度内容を固めておく必要があると思います。</p>
辻委員長	<p>それと、次回の検討会で新しい資料をいただけるということで、我々もできる限り目を通そうと思うのですが、微妙なニュアンスが中々書類では分かってこないなので、できましたらその説明をお願いしたいと思っているのですが。</p>
事務局	<p>次回からは、資料ができ次第、事前に各委員のところへ説明にお伺いさせていただこうと思っております。と言いますのも、幸いこの検討会は5名と人数</p>

	<p>も小規模ですので、できる限り丁寧に進めていきたいと考えておりました、事前に内容を説明させていただいた方が検討会もスムーズに進むと考えています。</p> <p>今年度は特に大きな方向性を見出すということで、今後の検討の幹になる最も重要な部分であるとも考えておりますのでいかがでしょうか。</p>
辻委員長	はい。それではよろしく申し上げます。
事務局	ありがとうございます。それでは次回以降こういった形で進めていきたいと思しますのでよろしく願いいたします。
施副委員長	もう1点、今後新たな補助金制度を構築していくということで、一番初めに言いました通り、新たな担い手がいなければそれを育てていく仕組みもお考えなのですか。
藤岡委員	そうですね、補助金については、今思っておりますのが、市の予算の枠組みの中で動いていくというのが原則としてあるのですが、それ以外に先ほどおっしゃられた民間の力を借りたりということも考えていきますと、今までの市からしか出ない予算ということではなくて、民間から出る仕組みということも含めて考えていけたら、より広い意味での補助金の在り方について検討ができるのではと考えています。
辻委員長	最近クラウドファンディングとかありますよね。ああいう形で全国の篤志家のような協力してくださる方のお金を使うということも大事かなと思いますので、市の予算だけではなくて、例えば四條畷市の中で良い活動があった時に、その情報を発信して資金を募るといったような方向性も検討すべきかなと思います。
施副委員	見えない社会関係資本というか、市が直接お金で助成する以外で、今委員長

長	<p>言われたようなクラウドファンディングなどで民主導のプロジェクトを行政が応援しているというだけで、行政の信頼でたくさんお金が集まります。</p>
事務局	<p>これについては、ご意見いただいたので、補助金在り方見直しの課題を踏まえたうえでの次の方向性の部分で、そういう活動も視野に入れた取組みが必要だというのを方向性の中に入れておけば良いのではと考えます。</p>
増田委員	<p>例えば鯖江市はFAAVO（ファーボ）というクラウドファンディングと提携してお金を集めています。</p>
坂本委員	<p>あのあたりだとお酒とかを造っているのではないですか。地元の米などで。</p>
増田委員	<p>あとは菜の花のなばな米とか、菜の花で米を作るとかいろいろしています。クラウドファンディングというのは一回ブームが来たのですが、今冷静になって見てみると、多くのプロジェクトでお金を出してくれるのはほとんどが関係者の知り合いなのですね。知らない人にお金を出すことは少ないです。ですので、元々起業家とか、お金を出してくれる友達が多いコミュニティに属している人が関係するとすごく集まるという感じですね。</p>
辻委員長	<p>ただ、アメリカでは企業やいろんな人たちの寄附で成り立っている事業も結構あって、営利団体でなくてもいいのですよ。ウィキペディアなんかも全て寄附で運営されているでしょ。こういうものに対して価値を見出す人もいてと思うので。だから可能性としてはあるのではないかなと。ただおっしゃるように日本人はあまりこういう文化はないのかもしれませんが。</p>
事務局	<p>寄付の文化というか、そういうものが欧米の方と日本の方と違う部分は大きいような気はしますね。</p>
施副委員	<p>感覚的には、何か社会のためにお金を使いたいと思っている人はまだ少ない</p>

長	<p>ですけど、確実に増えていると思います、それとクラウドファンディングの技術的な部分で、今一口何千円単位にものが来年から何百円単位できるようになるようです。</p>
藤岡委員	<p>いろいろな事業への参加の仕方があるということと、実際いろんなところで行われている中で出てきている問題の分析であったり、また、企業からの寄付であったりスポンサーのような歳入の部分についても考えていかなければいけないのかもしれないですね。</p>
辻委員長	<p>そうですね、そのときにやっぱり先ほど施副委員長おっしゃったような行政の信頼感というのが必要であると思います。</p>
増田委員	<p>今おっしゃっていることはやっている側として正にそのとおりだと思います。最初は補助金をいただいてイベントを始めて、そこから寄附を増やしていくときに、最初地元自治体の補助金と後援をいただいてスタートアップして、次に地元企業の後援をいただいて、さらに全国的な団体や複数の省庁の後援をいただくと上場企業のスポンサーを得られやすいということがあります。</p>
藤岡委員	<p>市として補助金を出すのも、いつまで補助金を出し続けるのか、期限を切るのか、期限を切った中で何をどこまで支援するのかというのも重要ですよね。</p>
施副委員長	<p>団体に助成するのではなく、団体の行う事業に対して助成して、その事業が2年3年のうちに黒字化して補助金なしでもやっていけるために補助金を出すわけですからね。だから我々も補助金の審査だけやってもおそらく改革に結びついていかないと思います。</p>
辻委員長	<p>何か我々で新たな仕組みが提案できたり報告出来たらいいですよな。 はい。中々議論も尽きませんが今日はこれくらいだと思います。</p>

事務局	<p>それでは、今日いただいた意見を元に一度次回会議の資料の案を作りまして、またご説明にあがらせていただこうと思いますのでご協力よろしく願いいたします。</p> <p>これにて本日の会議はこれで終了としたいと思います。ありがとうございます。</p>
-----	--

※辻委員の「辻」の標記は、正しくはしんによりの「、」がひとつですが、標記の関係上「辻」としています。